



13:1 さて、アンティオキアには、そこにある教会に、バルナバ、ニゲルと呼ばれるシメオン、クレネ人ルキオ、領主ヘロデの乳兄弟マナエン、サウロなどの預言者や教師がいた。

13:2 彼らが主を礼拝し、断食していると、聖霊が「さあ、わたしのためにバルナバとサウロを聖別して、わたしが召した働きに就かせなさい」と言われた。

13:3 そこで彼らは断食して祈り、二人の上に手を置いてから送り出した。

13:4 二人は聖霊によって送り出され、セレウキアに下り、そこからキプロスに向けて船出し、

13:5 サラミスに着くとユダヤ人の諸会堂で神のことはを宣べ伝えた。彼らはヨハネも助手として連れていた。

13:6 島全体を巡回してパポスまで行ったところ、ある魔術師に出会った。バルイェスという名のユダヤ人で、偽預言者であった。

13:7 この男は、地方総督セルギウス・パウルスのもとにいた。この総督は賢明な人で、バルナバとサウロを招いて神のことはを聞きたいと願った。

13:8 ところが、その魔術師エリマ（その名を訳すと、魔術師）は、二人に反対して総督を信仰から遠ざけようとした。

13:9 すると、サウロ、別名パウロは、聖霊に満たされ、彼をにらみつけて、

13:10 こう言った。「ああ、あらゆる偽りとあらゆる悪事に満ちた者、悪魔の子、すべての正義の敵、おまえは、主のまっすぐな道を曲げることをやめないのか。

13:11 見よ、主の御手が今、おまえの上にあ

る。おまえは盲目になって、しばらくの間、日の光を見ることができなくなる。」するとたちまち、かすみと闇が彼をおおったため、彼は手を引いてくれる人を探し回った。

13:12 総督はこの出来事を見て、主の教えに驚嘆し、信仰に入った。

13章から本書は新しい展開に入ります。つまり教会の本拠が、ユダヤ教の中心エルサレムから世界宣教の中心とも言えるアンテオケに移ります。また主役がペテロからパウロに移ります。このパウロによって、伝道の対象がユダヤ人から異邦人（ユダヤ人以外の民族）に移ってゆくのです。

もともと本書使徒の動きは、いかにして教会が前進したのかを明らかにものですから、いかにして教会が世界に広がったか記すのは当然です。アンテオケ教会には様々な人々がいたことが、その指導者を見てもわかります。バルナバハユダヤ人、シメオンは黒人で（イエス様の十字架を担いだあのシモンと同一人物の可能性がありますが）、ルキオは北アフリカのクレネ出身（ユダヤ人が多く移住していました）、マナエンは王室の関係やで位の高い人、そしてサウロはかつてクリスチャンを迫害したユダヤ人でした。教会が信仰で一致するとき、メンバーにある様々な違いが宣教の可能性を生み出すということがわかります。

世界宣教が人の考えや教会の会議からではなく、聖霊によって始まったのだということがわかります。それは教会がひとつになって礼拝し、断食という真剣な祈りのときに与えられました。礼拝の中で主が新しいことを語られるほどに、聖霊が働かれるようでありたいものです。

一行は魔術師との関わりで総督に会うことになりました。聖霊に導かれ、愛を持ってあらゆる人と交わりをするなら、主は宣教を道を開いてくださいます。

魔術師エルマの目が見えなくなったのを目の当たりにした総督でしたが、彼が驚嘆したのはあく

までも「主の教え」であったことは忘れてはなりません。私たちは「主の教え」によって救われ、導かれ、生かされ、そしてこれを伝えるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

